

## ②周辺等の樹木

難波宮跡周辺等の植栽されている樹木について、配置や樹種を整理した。(P36 図 29、P37 図 30)

### 【計画地周辺の樹木】

	施設名称等	樹種等の特徴
1	馬場町交差点周辺植栽樹	クスノキ・ケヤキの植栽樹
2		クスノキ・ヒラドツツジの植栽樹
3		クスノキ・ヒラドツツジの植栽樹
4	市道本町左専動線（本町通）の街路樹	シラカシ並木
5	大阪城公園「老人の森」	常緑樹中心の樹林が形成
6	大阪歴史博物館前植栽帯	様々な樹種が植栽されている 高木：クスノキ、ケヤキ、コブシ等 低木：サツキツツジ、ツゲ等
7	主要地方道赤川天王寺線(上町筋)沿いの街路樹	アメリカフウ並木
8	馬場町交差点周辺の街路樹	シャリンバイ・クスノキの植栽樹
9		シャリンバイの植栽樹
10		シャリンバイの植栽樹
11	北部ブロック南側	植栽帯はない
12		ウバメガシの生垣
13	南部ブロック北側道路沿いの植樹帯	シャリンバイの植栽帯
14	主要地方道赤川天王寺線(上町筋)沿いの街路樹	アメリカフウ並木
15	南部ブロック南側道路沿いの街路樹	トウカエデ並木

#### 大阪城公園（老人の森付近）



主な樹種：クスノキ、ケヤキ、シラカシ、イチョウ、アキニレなど

#### 南部ブロック（中央大通沿い）



主な樹種：クスノキ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、シラカシ、アラカシ、シダレヤナギ、イチョウなど

## 西部ブロック（上町筋沿い）



主な樹種：クスノキ、ケヤキ、サルスベリ、コブシ、ウメ、ユキヤナギ、ニシキギ、オタフクナンテンなど

### 【計画地内の樹木】

計画地内の樹木は、来園者を楽しませる色鮮やかな花木や紅葉の樹木は少ない。北部ブロックは、現況で計画的に配置された樹木はなく、南部ブロックにおいてクスノキ、ケヤキ等の大木が生育している。なお、南部ブロックには四季を楽しむ花木として、サザンカがある。

### 四季を楽しむ植栽



ウメ  
早春

コブシ  
早春

ヤマザクラ  
春

サルスベリ  
夏

イロハモミジ  
秋

オトツバキ  
冬

### 樹木景観



桜並木



緑陰



アイストップ

### 【景観阻害要因の緩和】

景観阻害要因となる大きな人工構造物は、①阪神高速（特に阪神高速の遮音壁）、②バス駐車場の2つがあげられる。基本的には、緑の緩衝帯を形成するが必要に応じて視線が抜けるよう整備し、景観調和を図っている。



クスノキによる阪神高速の遮蔽（南部ブロック）



下枝をなくし、視線を通す樹木（西部ブロック）

### ③景観（難波宮跡公園の視点場）

視点場として選定した個所は、難波宮跡公園の周辺にあって、同公園を俯瞰的に望見できる個所のうち市民が利用可能なところとした。

No	視点場	見え方
1	大阪歴史博物館内 10 階展望室	難波宮跡公園全体を俯瞰景観として見渡すことができる
2	法円坂歩道橋	難波宮跡公園全体を視認することができるが、外周の樹木や街路樹で、計画地内は見えない。
3	宮跡歩道橋	南部ブロック・北部ブロックの一部を視認することができるが、外周に植栽された樹木で、計画地内は見えない。
5	大阪城天守閣	難波宮跡公園を視認することはできるが、遺構表示が見えないため、史跡としての認識が難しい。





図 30 難波宮跡南部ブロック現況把握図（樹木）

## 5) 交通・アクセス

難波宮跡公園は大阪平野のほぼ中心にあり、海拔ゼロメートル地帯が広がる大阪平野の中で唯一の高台である上町台地の北端にある。近世には大坂城を中心として西側一帯に城下町が形成され整然とした碁盤目状の街区が形成されており、これが今日の大阪市の中心市街地を形成している。道路・交通網もこれを引き継ぐ形で、東西南北に道路及び鉄道網が張り巡らされている。公園へは地下鉄谷町四丁目駅、同森ノ宮駅、JR森ノ宮駅などを利用することができる。また、地域高規格道路である阪神高速道路13号線の出入口が隣接するなど、車による広域アクセスも良好である。

地下鉄やJR、大阪シティバス等の公共交通機関や道路交通網が充実しており、アクセス性の良い立地にあると言える。



図 31 難波宮跡公園周辺交通網図

## 公共交通機関

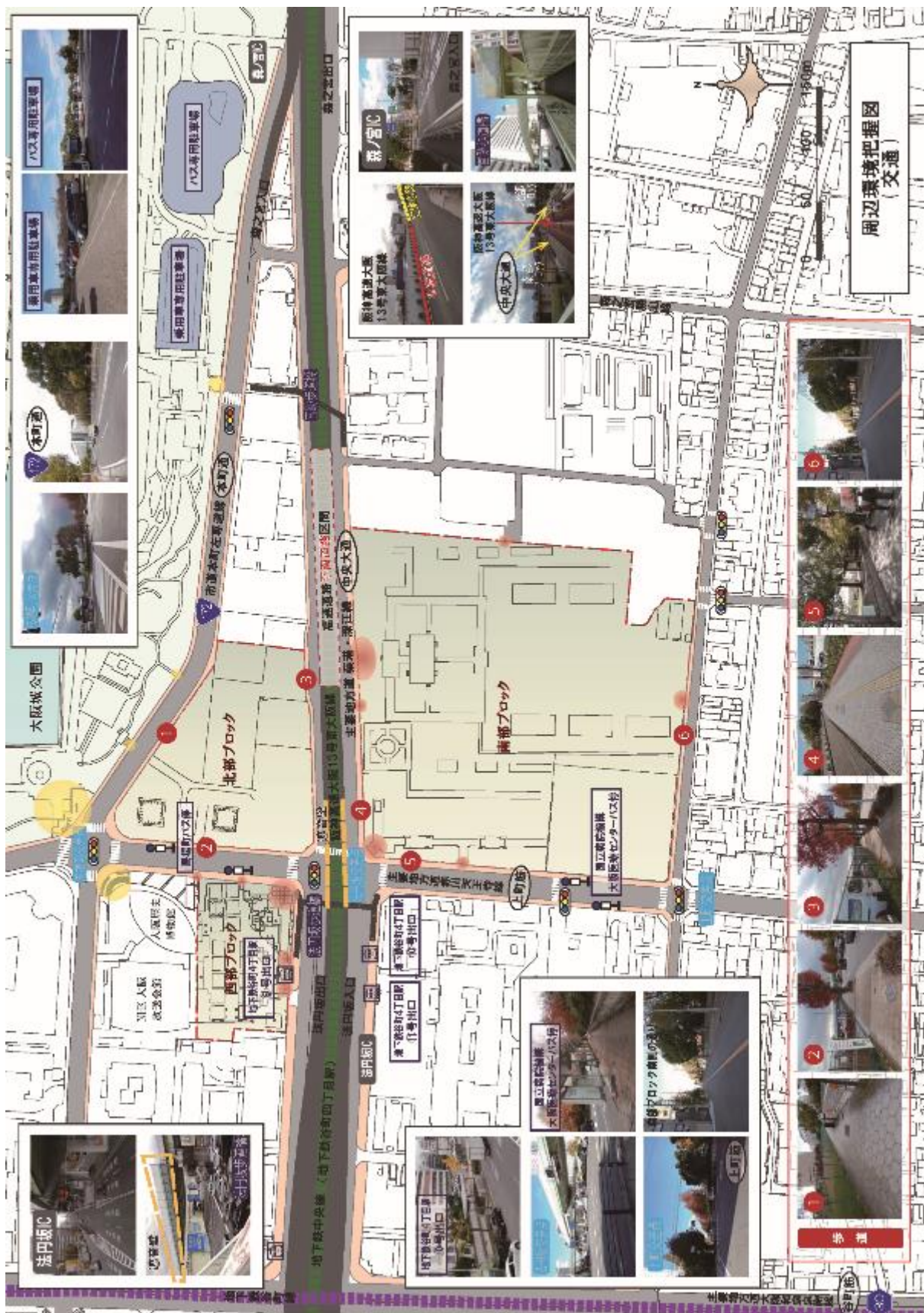
地下鉄	地下鉄中央線：谷町四丁目駅 森ノ宮駅地下鉄谷町線：谷町四丁目駅 天満橋駅地下鉄長堀鶴見緑地線：森ノ宮駅
J R	大阪環状線：森ノ宮駅、大阪城公園前駅
大阪シティバス	62 系統バス停留所：国立病院大阪医療センター、馬場町、大手前、京阪東口、天満橋
大阪水上バス	アクアライナー観光コース船着場：大阪城港、八軒家浜船着場

## 道路

高速道路	阪神高速 13 号東大阪線：森ノ宮 IC 法円坂 IC
一般道路	中央大通、本町通 上町筋、谷町筋、玉造筋

## 交通施設

項目	施設名称	特徴
鉄道(駅)	地下鉄谷町四丁目駅	地下鉄谷町線・中央線計画地周辺出口：⑨⑩⑪号出口
バス(バス停)	馬場町バス停	大阪シティバス 62 系統バス停留所
	国立病院大阪医療センターバス停	大阪シティバス 62 系統バス停留所
高速道路	阪神高速 13 号東大阪線	計画地周辺 IC：法円坂 IC・森ノ宮 IC
道路	主要地方道築港・深江線 (中央大通)	法円坂歩道橋・宮跡歩道橋が整備。 計画地を南北に分断する道路。一部遺構保存のため、平面道路区間がある。
	主要地方道赤川天王寺線 (上町筋)	中央大通 上町筋交差点：法円坂交差点
		南部ブロック南西部交差点：上町交差点
市道本町左専動線 (本町通)	本町通 上町筋交差点：馬場町交差点	





## 6) 難波宮跡公園周辺の駐車場配置状況

難波宮跡公園周辺の駐車場配置状況について整理した。

(平成31年3月現在)

No	施設名称	収容台数	車両制限	営業時間/料金	備考
1	大阪歴史博物館地下駐車場	143台	車高2.1m 地下駐車場	08:00~21:00/60分400円 以後30分ごとに200円	
2	大阪城公園駐車場	200台	車高2.5m車幅 1.9m車長5.0m	08:00~22:00/60分350円 22:00~08:00/60分150円	
3	大阪城公園城南バス駐車場	50台		08:00~22:00/60分700円 22:00~08:00/60分350円	バス専用
4	タイムズ大阪府庁大手前第2	46台	車高2.1m車幅 1.9m車長5.0m	07:00~00:00/20分300円 00:00~07:00/60分100円	
5	大阪市立法円坂駐車場第2ブロック(タイムズ)	248台	車高2.1m車幅 1.9m車長5.0m	07:00~22:00/60分300円 22:00~07:00/60分100円	歩行者の出入口は谷町筋のみ
6	GSパーク 谷町4丁目	40台	車高2.4m未満	08:00~22:00/40分200円 22:00~08:00/60分100円	
7	アネックスパル法円坂駐車場	30台	車高2.1m車幅 1.9m車長4.9m	00:00~24:00/60分300円	
8	リパーク法円坂1丁目	10台	車高2.0m車幅 1.9m車長5.0m	08:00~20:00/40分200円 20:00~08:00/60分100円	
9	リパーク上町1丁目第3	3台	車高2.0m車幅 1.9m車長5.0m	08:00~20:00/40分200円 20:00~08:00/60分100円	
10	法円坂パーク	6台		08:00~20:00/30分200円 20:00~08:00/90分100円	
11	リパーク法円坂1丁目第3	6台	車高2.0m車幅 1.9m車長5.0m	00:00~08:00/60分100円 08:00~20:00/30分200円 20:00~00:00/60分100円	
12	リパーク上町1丁目第4	4台	車高2.0m車幅 1.9m車長5.0m	00:00~08:00/60分100円 08:00~20:00/30分200円 20:00~00:00/60分100円	
13	タイムズ上町第5	3台	車高2.1m車幅 1.9m車長5.0m	08:00~22:00/60分300円 22:00~08:00/60分100円	
14	リパーク国立大阪病院南	8台	車高2.0m車幅 1.9m車長5.0m	00:00~24:00/25分200円	
15	ブレイク上町	3台		00:00~24:00/30分200円	
16	イズミヤ法円坂店駐車場	83台		07:00~25:00	
17	KKRホテル大阪立体駐車場	76台	車高1.6m未満	07:30~22:30/30分300円 30分ごと300円	ホテル利用客のみ利用可

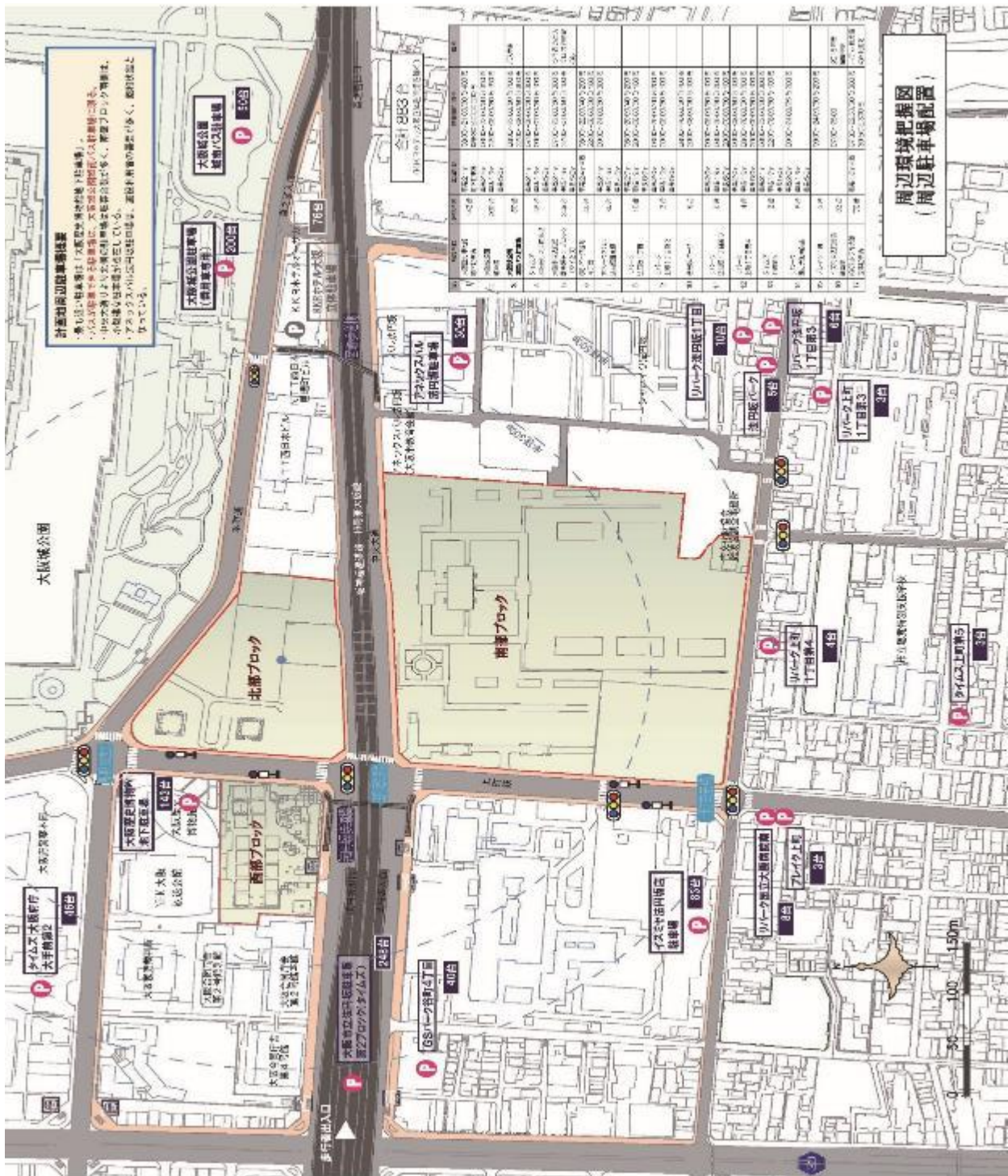


図 33 難波宮跡公園周辺環境把握図（周辺駐車場配置）（平成 31 年 3 月現在）

## 7) 土地利用

現在、難波宮跡（西部ブロック）は、大坂城跡とならび都市公園として広く利用されている。江戸時代には大坂城の周辺は城代屋敷などの武家地が広がっていた。明治時代以降は武家地の跡地は軍隊や軍需工場が建設されるなど、公共の施設用地として使われたが、現在も国や大阪府などの官公庁や公共施設が多くを占めている。また、難波宮跡や大坂城跡などの遺跡は公園となり、オープンスペースとして確保されており、古来港湾・交通路として重要な役割を果たしていた大川（旧淀川）は河岸一帯が緑豊かな水辺空間となるなど、宅地の稠密する市街地中心部にあって、広がり潤いのある空間となっている。

## 8) 災害時の活用（防災）

大阪市はわが国でも有数の人口集積地である。今後、近辺の上町断層等の内陸活断層による地震や、南海トラフで発生する海溝型の地震等の大規模な災害が発生する恐れがあるため、避難者の安全が確保できる避難地の設置が求められる。

広域避難地としては、これまでは10ha以上の公共空地が必要とされてきたが、近年は耐火構造、準耐火構造等の普及により大規模な火災が発生しにくくなったこと等の理由により、10ha未満の空地でも、広域避難地として指定することが可能となっている。

上町台地上では大阪城公園がこれに指定されているが、それ以南は天王寺公園までの間には指定地はなく、難波宮跡の3ブロックは、避難地として防災機能を発揮できることが期待できる。

## 9) 人口動向

平成30年（2018）10月1日の大阪市の人口は272万5,006人であり、前年度比1万1,849人（0.4%）の増加であった。近年の4年間についても同様に前年度比0.4%の増加となっている。その中では北、中央、西、福島の4区が2.8～1.7%の高い増加率を示している。

## 10) 集客・観光

難波宮跡は、歴史的にも非常に高いポテンシャルを有していることから、大阪城公園と一体的に整備することにより、大阪城・大手前・森ノ宮地区が一体的な歴史拠点となり、海外も含めた広域的な集客力を強化することが可能である。

近年観光客の増加が顕著であるが、来阪外国人の動向をみると、平成31（令和元）年は平成27年と比較して約2倍（716万人→1,231万人）に増えている。来阪外国人のうち約8割が東アジア4地域（中国、韓国、台湾、香港）で占められており、これは全国平均や東京の数値を上回っている（観光庁「訪日外国人消費動向調査」など）。

また、関西国際空港における平成31（令和元）年度外国人動向調査では、大阪来訪の外国人のうち約5割が大阪城公園を訪れるという結果が示されている。（大阪観光局「2019年関西国際空港外国人動向調査結果」より）

なお、平成 31（令和元）年度の隣接する大阪城公園への年間来場者数（推計）は約 986 万人、大阪城天守閣の年間入場者数は約 218 万人であった。（大阪城パークマネジメント共同事業体「大阪城公園パークマネジメント事業令和元年度事業報告書」より）また、平成 31（令和元）年度に実施した大阪城天守閣における来館者動向調査によると、来館者のうち約 9 割が大阪府外（うち約 6 割が国外）からの来訪者であった。（大阪城パークマネジメント株式会社「2019 年度大阪城来館者動向調査報告書」より）

一方、2020 年の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、人の移動や集客が制限され、インバウンド需要がほぼ消失し、宿泊、飲食等を中心に売上が大幅に減少するなど、観光をはじめあらゆる分野において多大な影響を受けている。

新たな生活様式の浸透や消費行動、働き方が変化しているなか、観光分野においても地域の魅力再発見につながるマイクロツーリズムやアウトドア志向、旅の個人化・分散化、ワーケーションの進展による旅の長期化など、旅行者のニーズが変容しており、こうした潮流を捉えた施策が求められている。